



一人権だより



vol.45

【人権・同和問題地域懇談会の報告】

10月1日から31日まで行われた人権・同和問題地域懇談会（以下、地域懇談会）には多くの方のご参加をいただき、ありがとうございました。

今年度の地域懇談会は、「家庭の中の人権」をテーマに、ビデオ視聴と懇談会という内容で行われました。

今回使用したビデオは、一人ひとりが近すぎるからこそ気づきづらい『家庭の中の人権』について見つめ直すことを目的に、育児休暇やDV、親の介護問題など、昨今新たに問題となっている人権問題も取り上げられ、毎日の生活の中で人権感覚を磨いていくことの大切さを訴える内容のものでした。

ビデオを視聴した参加者は、その後の懇談会で、ビデオを見て気づかされたことなどを話し合い、改めて人権学習の大切さを実感していました。

地域懇談会終了後にご協力いただいたアンケートは、地域懇談会のまとめとして人権啓発冊子「けいかん」に掲載し、後日配布する予定とさせていただきますので、ぜひご覧ください。



▲地域懇談会の様子。

【人権啓発パネル展】

12月4日から10日の「人権週間」の期間中、役場1階ロビーにて、「支え、支えられ、共に生きる」をテーマとした人権啓発パネル展を実施します。「子どもの人権」「高齢者の人権」「障害者の人権」などのパネルを展示予定です。

観覧は、土日を除く役場開庁時間にご自由にご覧いただけますので、みなさんのご来場をお待ちしております。

【問合せ】

桂川町人権センター（旧桂川町隣保館）内
隣保・人権同和教育係 ☎65・1187

けいせんびと

～話題の人・団体～

第49回子規顕彰全国俳句大会で特選

遠目にも観世音寺の楠若葉

藤田昌愁

四国・愛媛県松山市生まれの藤田光久さん（俳号・昌愁）は、昭和23年、19歳のときに桂川町へと移住し、当時の桂川町の基幹産業であった炭坑の仕事に就労。

25歳の頃、知人から句会に誘われたことをきっかけに俳句を始めたという藤田さん。「当時は、天道坑、平山坑、吉隈坑と、炭坑ごとで頻繁に句会が開かれよった」と目を細める。

桂川町の俳句の歴史の生き証人とと言える藤田さんは、今回、第49回子規顕彰全国俳句大会で、俳人・行方克巳からの特選を受賞した。全国から応募された俳句の中からわずか25句にか与えられない特選に選ばれた

藤田さん。受賞した俳句について、「観世音寺の楠若葉がむくむくと生い茂っている様子を詠んだもの」と話す。

俳句を始め60年になる藤田さんに、俳句をやっている間に、俳句を聞くと、「景色やらかった点を聞くと、「景色やらかった点に、この景色を俳句にできかね」と注目するようになる。風物をじっくりと見つめることができる。それが俳句の良い所」と、頬を緩めながらも真剣なまなざし。

「俳句は季語を入れて五七五にするだけ。何も難しくないと笑う藤田さん。慣れ親しんだ桂川の地で、これからも俳句を詠み続ける。



藤田 光久さん
Fujita Mitsuhsa (85歳・平山二)



▲藤田さんは現在、桂川町俳句会に所属。炭坑閉坑に伴い発足した同会は、60年近くの歴史を誇る。

観世音寺（太宰府市）